

洛友会会報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会

四月雑誌

洛友会会長 松田長三郎

□新会員歓迎

今回、京都大学電気系各学科を、目出度く卒業された新学士一七七名の諸君を、洛友会会員として、新たに歓迎へすることが出来たことは、誠に同慶の至りで、心からお慶び申し上げます。我々の教室の卒業生は、明治三四年、第一回の卒業生を出してから、これで、五三〇〇名、講習所卒業生を入れると七〇七八名となり、これ等の方がたが、我が国の電気学術・技術の発展、現在の経済大国の育成に、大きく寄与貢献されたことと、自負できることは、私どもの大きな喜びであり、誇りである。

去る三月行はれた京都大学の修士学位授与式では、取得者総数八九六名(内・工学修士五三八名)、又新学士は、総務二四二八名(内・工学士八五一名)。このうち、電気関係修士及び学士は、夫々七〇

名及び一〇七名で、工学関係の修士・学士が断然多いことは、今後、科学・技術の開発振興が、世界的にも、最も重要視されている現在、大いに人意を強うするところである。又先般実施された国立大学試験の一次試験において、全体的に優秀な平均点数を取得された受験生が非常に多かったと聞いたが、世界的に見て、新進の青年学徒の知的水準の極めて高いことは、二一世紀に向けての我国の文化活力の原動力として、誠に喜ばしいことである。

学習を基礎として、ホントの社会活動の本番であるから、心気を新らたにして、夫々の職場で頑張っ
てほしい。職種職場によっては、急がしい所もあれば、案外ヒマに見える所があるかも知れぬ。規待していたような職場に配属されぬかも知れぬが、不満足な職場でも、蔭ひなたなく、真面目に努力することが大切である。大体入社数年にして、将来の見通しの考課は、つけられるのではないか。ここ数年間こそ、生涯の進路が決められる大切な正念場となるのではないか。私は、今後、愈々厳しさを増して来る国際的・国内的の社会生活のきびしさに心を致し、このことを深く心に留めて、精進努力を怠らぬようになって欲しい。こう云へばとて、始終張り切つてばかりも居れぬ。適当のレジャ1、息抜き、趣味・娯楽・修養など、ゆたかな人間性のかん養も亦、甚だ大切である。一見無駄とも見える思索や読書も必要である。

あることも望まれる。何事にも、イエス・マンでも困るが、そうかと云つて、事毎に異を称えるようでも困る。物事に処して、内に適確妥当な判断を下せる気量、しっかりした自持の精神を以て、「流れて同ぜず」の心掛けが必要であり、これには、やはり不断の心掛け、修養が基盤になる。今や生涯教育が強く叫ばれて来るようになって来ているが、皆さんには、今がその第一歩である。老婆心までに、どうもエラそうなことを書き記して、聊か心耻かしいが、切角健康に注意されて、ご奮闘と将来のご多幸を祈ります。

□新技術の開発
新技術の開発が叫ばれてから久しいが、その種になるもの、シードの種播きが大切である。去る3月末発表された京大工学部の吉田教授をリーダーとする研究グループの達成された有機化合物の合成は、正にその一つの例であると思う。今後の電力事情は、原子力発電によるのが本命と考えられていたが、丁度、二年前の米国スリールマイル島原発の事故発生以来、世界の原発は一時、全面的に停頓した。我国では、今漸やく再開の気ざしが見えて来たが、当時、原発の代替エネルギー源として、所謂、サンシャイン計画や、ムーンライト計画など、積極的・消極的の代替エネルギーの計画が、国家的プロジェクトとして実施されているが、前記の新合成有機物の研究は、太陽エネルギー利用について、大きな希望を持たせるものである。この新物質に、太陽光熱を投射して、そのエネルギーを吸収させ(吸収しても、温度は上らぬ)、必要の時、適当な触媒を用いて、この吸収エネルギーを放出させ、物質は元の状態に戻る。この物質は幾度でも反覆利用できることで、誠に興味ある有用なアイデアであると思う。

新会員諸君は、これから精進努力を積まれて、その職場職場で、必要不可欠の人材、余人を以て替えることのできないような人になつて欲しい。従来、積んで来られた小学以来16年間の学校生活は、これからの社会人として活躍されるための順備時代であったので、これからの愈々従来の人格形成や

人の性格は万人不同、夫々特徴があつて良いが、自信過剰・自我の強い積極性の強い人、又反対に、何事も控え目に、抑制謙讓・閉鎖性の人など、これはこれで夫々、特色があつて良いであらうが、団体生活になると、協調性で

こういう性質を有する物質は、將來いくらもでてくるかも知れぬが、このアイデア、着想は、当然の想定ではあるが、一面、人の意表をついた考想である。蓄エネの問題は、機械的、電氣的、化学的など、種々の方法があるが、この考へ方は非常に興味があり、今後、これらの研究の発展が期待される。

尚これからは、強電・弱電の別無く、エレクトロニクスが、各方面にしん透して行つて、どこまで発展して行くか予想もつかぬ。産業は勿論、あらゆる生活様式を変えて行くように思はれる。今やエレクトロニクスの時代の黎明期のような気がする。

□スペース・シャトル

NHKや3月発行のプロメテウス誌21号によれば、米国防空宇宙局(NASA)が、一九七二年以來、研究中であつたスペース・シャトル(現用の使ひ捨て型ロケットと飛行機とを組み合せた有人型宇宙連絡船)は、最初一九七九年3月、発射の筈であつたのが、延び延びになつて、愈々この4月近日に、発射の段取りになつたと云う。これは、(1)オービタ(主エンジン3基)、(2)外部タンク、(3)固体ロケットブースター(2個)から構成され、その全長56米、発射時重量約二〇〇〇トンと云はれ、

そのエンジンや燃料も大変である。当初52億ドルと云はれた開発費は、今後、一〇〇億ドル(22兆円)にもなるうかと云はれる巨大計画で、流石、米國と感嘆する。宇宙空間の謎を解明し、無重力・真空状態において、種々の実験、

本会常任幹事

山本茂雄氏を悼む

洛友会会長 松田長三郎

本日、茲に応用科学研究所の社葬の礼を以て、この葬儀が執り行はる事に当り、私は、本会常任幹事であられませんがあなたのみ靈に、最後のお別れの言葉を申し上げなければならぬことは、誠に哀惜痛恨の極みであります。茲に、本会会員一同を代表して衷心より、御逝去を悼み、御冥福をお祈り申し上げます。

あなたは、大正六年、京都帝國大学工学部電気工学科を御卒業と同時に、事業界にはいられ、各方面の職歴に於て、常に新技術の開発に多大の成果を挙げて来られました。超えて昭和41年、清はれて応用科学研究所に御奉職、鳥養先生初め、歴代の理事長を助けて、常務理事、事務局長として、事業の運営に当られ、同研究所の誇る

更には、宇宙ステーション・宇宙工場・太陽発電所等々計画され、正に大規模宇宙世紀のあけぼのと云える。しかし、これが悪用されれば、人類や地球の破滅にならんとも限らぬ。人類の良心・良識に信頼せざるを得ぬ。

高周波表面焼き入れ法の広汎なる実用化はもとより、新技術の開発に、鋭意努力され、困難なる研究所の健全なる運営を達成して来られました。この間、あなたは母校の洛友会の常任幹事として、幹事会・総会・会報・会員名簿の刊行など、煩きな事務を、綿密周到に処理して下さい、又各地の支部總會にも、つとめて御出席の上、事業の詳細な御報告を頂くなど、誠に責任感強きお人柄は、会員諸君の厚き信頼を得ておられました。

ここ一兩年來、健康稍勝れられず、研究所にも病軀を押して御出勤になり、事務を処理されていると聞きましたが、先月奥様からのお手紙によれば、稍快方とのことでありましたので、安堵してお

りましたが、三月三日、薬石効無く、惜しくも御他界になりましたことは、今後益々あなたに期待する所甚だ大でありましただけに、幾重にも残念でなりません。ここ

山本君の靈前に捧ぐ

(応用科学研究所における弔辭)

昭和六年卒 青柳健次
大阪大学名誉教授

春まだ浅きを思わせる肌寒き三月三日の夕方、君は一年有余に亘る闘病生活の末遂にこの世を去られました。

しさをひしひしと感じ諸行無常とはこのことを云うのであろうかと思つたことでした。

御遺族の方々のお力落しはさぞかしと心よりお悔み申し上げる次第でございます。御家族のお話によりますと君は御臨終の床にあられても懐かしの三高寮歌「紅萌ゆる丘の花」を口ずさまれつく安らかに、終られたと承りました。この歳になりましたも聞いただけで胸が一杯になる程のロマンに満ちたあの寮歌を歌いつつ君は心に何を想い、まぶたに何を思い浮べられて昇天して行かれたのでしょうか。うらやましい気もいたしません。平素の君の物事に淡々たる風格が偲ばれて感慨深いものがありました。

思い出せば吾々昭六会グループが始めて君にお会いしたのは今を去る五十三年前、昭和三年四月のことでありました、それ以來クラスメート五〇名は常に結束して勉強もし、運動もしつつたのしく三年間をすごし、昭和六年三月卒業と共にそれぞれの道を進むことになりました。当時は満洲事変の始まつた年でありまして志を満洲帝國に伸ばさんとする若者が多くあつた時代でありました。君も卒業と同時に昭和電工に入社され、昭和十一年には日本高周波重工業の創立に参加され、昭和十二年には同社の城津工場の建設に技術部長として活躍されたのであります。然し時に利あらず敗戦の為同社は解散、君は帰國の止むなきに至り、後暫らくは状勢を静観して

をられたようでしたが、その後友人鈴木君の作られた沖ビジネスマシン販売株式会社大阪営業所長として停年まで勤められ、その後現在の応用科学研究所常務理事として入所、大いに活躍されて研究所を現在の安定した状態にまで伸ばされたのであります。

京大の学生時代、心やさしき君は交友関係も至極円満であり得意とする囲碁、テニス等では我々が羨ましい位活躍されました。君は体は小柄な方でしたが運動神経は大へん発達され、テニスコートに於ける敏捷な力強いフォームは今でも目に見えるようであります。

パートナーは本日列席しておられる長安君・福岡君、そしてつい先般物故された藤田君でありました。この親友藤田君を病に奪われた君はさぞがっかりされたと存じますが責任感の強い君は気落ちされた様子も見せずに研究所の仕事を切り廻しておられ、入院された一月六日の前日まで研究所の部屋に顔を出して居られた由にて誠に感心した次第であります。

来る六月には京大電気工学教室卒業五十年を記念して恩師ならびに物故会員の慰霊祭を懐かしい京都でつとめ、あわせて久々に友情をあたためるべく計画してをり、当然君も元氣な姿を見せて下さるものと思ひ居りましたのは、その

日を持たず幽明境にせざるを得なくなつたことは誠に悲しいこととあります。

君も御存知のように安藤弘平君は早くより心霊学の研究をされ、自分もまた靈魂の科学的研究を行つてをりますが、御遺族が君の靈魂の現存を信じられて君のみまが安らげくあれを祈られるのと同じように我々友人もまた君の御冥福をお祈りすると同時に、君が御

山本茂雄さんを思んで

講大正十四年卒
応用科学研究所 山崎惣三郎

昭和十五年応用科学研究所は高周波電流による鋼の製錬に関する研究を実施することになり、その研究計画の打合わせのため私は日本高周波重工業株式会社の城津工場で技術部長として活躍中の山本茂雄さんをお訪ねしました。

そのときからお付き合いが始まったのです。当時研究所では鳥養利三郎先生、西村秀雄先生、阿部清先生の御指導の下に、大電力の高周波電源装置の開発および鋼の高周波焼入法の基礎的研究と実用化試験に重点を置いて研究を進めていました。その結果航空機用発動機部品の歯車や「ピン」類の表面焼入れが短時間に実施できるようになり

遺族ならびに我々の守護霊として遙かに御加護下さらんことをお願いする次第です。七十才をすぎればお互に生死は問わざるところにひたすら御靈魂の御安らかならんことをお祈りしつつ以上をもつてお別れの言葉とさせていただきま

昭和五十六年三月十四日

ました。

昭和十八年山本さんは研究の推進を計るため城津より入浴し応研に出向され、着任後は高周波焼入法の研究を担当し数々の成果を揚げられました。

その後応研の高周波焼入法は、技術院、陸海空軍よりその成果を認められ国家総動員法による試験研究命令を交附され、研究活動は一層活発に行なわれたのであります。また各航空機製造工場には高周波焼入装置を設置して技術指導を行ない実用化の促進を計りました。

した。

昭和二十九年山本さんは応研の第三研究部長に就任、砂鉄中に含有する「チタン」性分の分別採集法に関する研究を担当、独特の選鉱分離装置に静電気分離法を応用し高効率な分離採集の可能であることを確認しました。

その後昭和四十一年には応研の常務理事に就任され経営事務を担当し「オイルショック」その他の苦境時に際しては所員一同を激励し、これを取り切り、今日を築いたのでありましてその熱意には深甚な敬意を払う次第です。

山本さんとは戦前から数十年の長期間御一緒に仕事をさせて戴きました。また年末とか慰安会などでは、お酒を酌み交す機会も度々で、終戦前後にお酒の入手困難な時代には真白い「にこり」酒とか、「かすとり」焼酎など探し求めて歩いたこともありまして。あなたは「いんちゃん」と云う愛称で呼ばれていましたが、その語源は存じません。お酒は好き

な方で宴の酣ともなりますと浪曲「森の石松」が飛出したり韓国民謡「アリラン」の名調子などよく聞かされたものです。また御趣味の囲碁は熱心なる研究者でしたから、おそらく有段者であったと思ひます。研究所内で歯の立つものはありませんでした。

昨年春山本さんは腹部の「レントゲン」検査の結果入院治療の要ありと診断され、洛北の石野病院に入院し療養に専念されました。その結果病状は快方に向い秋頃に退院されたのですが、このときの御容体は未だ御全快したのではないのにかかわらず、病軀を押して研究所に出動されました。思えばこの御無理が病状を悪化させたのではなかつたかとひそかに心の痛みを感じている次第であります。

今はなき山本さんとの尽きることなき思出の数々を胸にいだきつつ、謹んで御冥福を御祈り申し上げます。 合掌

相馬敬司氏の逝去を悼む

矢島脩三
安陪稔
小倉久直

昭和三十一年卒、京都工芸繊維大学電気工学科教授相馬敬司氏に

はかねてから病氣療養中でしたが昨年十二月十五日京大病院におい

て逝去されました。ここに洛友会の諸兄に御報告申しあげますと共に衷心より哀悼の意を表わす次第です。

氏は第三高等学校より京大電気工学科に入学されましたが、途中病を得て療養後復学され昭和三十一年に同科を卒業されました。したがって入学時には昭和二十八年卒の諸兄と同期でもあり広い交友関係をもっておられました。療養中に囲碁に親しみ日本棋院の二段であったことは知る人も多いと思います。氏は博士課程を大久保教授のもとで了えられ、西原教授らと共に電力系統の供給、流量の推計学的研究に従事し、三十六年より電気工学科助手、三十九年より助教を勤められました。後に生体工学、医用電子工学の方面の研究に転じ近藤教授、桑原教授、宇山助手らと共に循環系のシミュレーション、計算機によるX線画像処理、血流測定等の研究を行い医用電子工学の播種期以後今日に至るまで活躍をつづけられました。京大時代に氏の指導を受けた学生も多数にのぼるものと思えます。

宮下助教、福島助手らと共に血流計、医用画像処理、超音波映像法の研究で優れた業績をあげられ、医用画像のデジタル処理に関する日米科学協力セミナーに招待されるなど幾度か海外に出張されました。学会でも日本MEE学会編集委員、日本自動制御協会評議員などを勤めておられました。この精励ぶりはかつての病身のおもかげもないほどで、はた目にも心配な位日夜研究、教育、大学運営にうちこまれました。このような過労の為か五十三年夏頃より以前の病気の後遺の原因による呼吸不全をおこされましたが、3ヶ月療養の後大学に復帰されました。五十四年夏病再発のため京大病院に入院し、五十五年夏には一時大学に出勤するまでに回復されましたが、十二月に至って急に病状が悪化し御家族の手厚い看護もむなしく逝去されました。葬儀は伏見の桃山教会で多数の御参列のもとに行われました。氏はクリスチャンであつて昭和三十六年に日本聖公会で洗礼を受けておられました。同氏を知る者にとってはもはやあの温顔と誠実な人柄に接しえないのは深い悲しみであります。御遺族には夫人と二人の御息が残されましたため諸先輩、友人らと相談の上遺族後援募会を行いました。幸い洛友会の諸兄はじめ、学

内外の御協力をいただき予定の醗金をいただくことができました。ここに厚く御礼申しあげると共に

挽歌

相馬敬司兄に捧ぐ

朝な夕な君行きましたし小栗栖の道吾が来れば見ゆる枯原

君が棺ひた見守りつつ母刀自のみ声かすかに経誦し給ふ

己が病ゆゆしきものを 臥せりつつ 為さまく事を言ひ出づる君

臍曲りの辨

講大正六年卒 立石亨 三 株式会社シンコーメタリコン会長

八十六才の老生となり、過去を省みて最も深い影響を受けたのは、大正四、五年の間でありました。明治三十一年、京都帝大工学部を創りに京都に來られた青柳榮司工学博士の一角変わった講義を聴いたことにあるように思われなりません。先生の担当講座は電灯照明でし

同氏の御冥福を祈りたいと思います。

小倉久直

手をそめし数多の研究 成らざるを 心残して逝きし君はも

君が名札在りしがままに 見まほしを 白札見つしかなしかりけり

嬉き事も吾が憂き事も兄のごと 聞きましし君今は在らずも

だが、講義の「ノート」はほとんど開かれないで、学界、業界の研究所、関係図書館を紹介された程度でした。講義の大部分は人間性のありかたで、まず国民最大の道徳とは自己を知るという一語に尽きると。人と人との交流変世は智情意、すなわち三つと、強調されまし

た。先生は工学博士でありながら、武徳会禁酒会の副会長をされ、また当時、各都市の商業会議所を今の商工会議所と名称を全国的に替えられた珍らしい偉人でもありました。故人になられたいまつくづく感銘を深く偲んでいる昨今であります。私が講習所を卒業しました大正六年頃、わが国の照明用電球の製造は、「マツドランプ」(GE系、今の東芝)に独占されていまして。青柳先生はこれを憂い電球は総べて国産で賄うべきだとの御意見でありました。私は先生の命を受け、当時九州一円に給電していた九州電鉄、九州水力、九州軌道の三社の出資で、小倉市に資本金五十万円の大正電球株式会社を創立に参加し入社しました。ところが三年後に同社は「マツドラ」に買収されてしまいました。それで私は京都に帰ってきました。当時先生が創立された青柳研究所は学内にあり、故人の上林理工学士、全田理学士、阿部工学博士、現在の松田長三郎京大名誉教授等のご熱心な研究員がお揃いになっていました。その後、先生のご提唱により、京都駅裏の八条通りに地元の故松風嘉定、故井上龜之助氏等のほび学者各位のご協力で、資本金五十

万円の内外電球株式会社が創立されたので、これに参加入社したのであります。製造する電球も、青柳研究所のご指導で、「タングステンコイル」「ガス入り」と進歩改良されて参りましたが、同社も亦昭和六年にはまたまた「マツダ」に買収される運命に陥りました。

病床にあられた先生に辞職の許しを乞へて参上しましたところ、当時の東京電機株式会社「川崎市本社」社長山口喜三郎様の銀座の事務所に呼びだされ、世界の流れを説明され、米国の「ネラ」の工場に出向して世間学と技術を勉強して来るよう勧められました。若さのいたり信念が許さずお断りして帰りました。一ドル二円の時代です。

当時、第二次大戦直後で、欧州では「エタニットパイプ」「ペーライト」「メタルゼーション」の三大發明特許が発表されていた時期でもありました。そこで銀座の服部時計店の故江沢謙次郎氏が海路「スイス」に時計の仕入に渡欧したので、時計の買付約束をしない、置時計台製作工程で、「セメント」又は石膏の台に、「ブロンズ」や銀等の金属を溶射する目的で「メタルゼーション」の特許実施権を買って帰国しました。この技術は、欧州では「メタルゼーション」、米国では「メタルスプレー」、我が国では「メタリコン」すなわち金属溶射と称するようにになりました。

江沢氏は、実父のご気嫌が悪かった由で友人を辿り入洛しました。その友人は同県人で、私が広島工の機械科出身であることを知っていた沖島哲二郎政友会京都支部長でありました。沖島氏の仲介で私は工業方面に應用する目的で分権をうけ、ただ今の場所では僅か十五馬力のポンプで実験的にメタリコン工作研究所を作り出した。

故青柳先生を基盤にして鉄の腐蝕防止、すなわち、鉄の節約に重点を置きました。梅雨のある我が国は、世界で最大の鉄錆の発生国であり、年間鉄腐蝕による「スクラップ」の製鉄所に選んでくるものの量は実に驚くべき数字であったからです。

京都出身者で長崎三菱造船所の溶接工場長であった佐々木新太郎氏がたまたまこのことを聞かれ、進んで造船に採用してみようご指導、ご協力をして下さるようになりました。このため長崎、神戸、横浜の各造船所及び舞鶴工廠に出入するようになったのが実用化の第一歩であります。当時の使用材料は針金で溶射機（吹付機）は電気式でした。

戦時中に這入ってからは航空機製造工場にも進出し、三菱重工の外、中島航空九州飛行機会社、海陸軍の直轄工場で、「ソルトバス」の耐熱、耐蝕加工に「アルミニウムメタリコン」を應用することに専志し、敗戦直前には呉工廠の潜水艦課に泊り込みで特殊な加工もいたしました。

戦後は、前記の佐々木氏の斡旋で国鉄の技術研究所の指導のもと、貨車に乗っている「タンク」の内面加工に従事し、GHQの仕様書で三原の三菱、下松の日立、川口の日本車輛、宇都宮の富士重工の各社内に常駐作業所を設け、車輛が中心になりました。国鉄が復興するに従い「ビルマ」「タイ」向け等の輸出車輛は一〇〇%弊社が請負いました。

輸出車輛の、鉄骨部は亜鉛「メタリコン」、水槽類は亜鉛と「アルミ」の合金「メタリコン」を、また航空機ガソリン槽には錫でしたが、近年は「ステンレス・メタリコン」に変わりました。吹付機は昭和四十年頃から電気式がガス式に変わり、五十年頃からガス・電気併用式になり、材料は粉末となり、種々の合金が欧州で開発されました。欧州では基礎的研究が進み、米国では応用が進んでいるように思われます。昭和二十五年頃、日本生命から

全国的に「チェーン工場」を各府県毎に設置し、本社を東京に移すようにすすめられたが断りました。

七十七才の時、遠距離の宇都宮、川口、下松、三原の常駐作業所は、多年従事してくれた現場の職員に暖簾けして、山科から車で日帰りの出来る、近畿地区に絞ることとしました。

それで、当時京都市内に工場がなかったで、初めて神足の日本輸送機会社内に設けました。他に滋賀県下で三ヶ所、大阪府下では引き続き近車のほか二ヶ所を統括することにしました。自分の力の限界を知って、大きい世帯を極力さげようと思つたからです。

さて私は若い時に、先に述べましたように、中小企業が大企業に吸収され、そのため会社を罷めた苦い経験があります。自分が会社を経営するようになってからも、大企業から特許共有の申出や、下請工場契約などの勧誘がありましたが、すべてを断つて、わが道を行く主義に徹してきました。社業を大きくすることは一切考えず、会社の従業員を家族とする大家族主義の下に会社の経営に当って来ました。

かつて、下松日立製作所で弊社の従業員に、お前のところには何故労働がないのかとの質問された時、社に勤めているのでなく、親父様と一緒に仕事をしているのだと返事したとの笑話があります。広告し無理して貰う仕事よりは、先方様から頼まれたら懇切丁寧にご希望に添う努力を払い、取引は継続するよう、そして巾狭くとも世間に有意義なものを深く追及して行くことに徹したつもりで、今日に至りました。鉄資源の節約を目的に職業を通じて、社会奉仕に自分の勤めが出来たと考えています。これも故青柳先生のお蔭様と信じている昨今です。先生が今少し長生きしてくださったら、今少しよい日本になったであろうにと、この点残念で大きい心残りであります。

しかし結果的にはただの臍曲の野人として、わがままを通して来たに過ぎないのかも知れません。地位も、財も、名誉も望まず我を通し、決して他人に迷惑をかけるに、お前は何か楽しみで生きているのか、どんな財を持っていかると尋ねられることが多い。昨今、財も名誉も地位なども何等の欲望も更でない、のみならず、事実何も持っていない。強いて言えば、地球上に四十数億の人間がいるだろうが、どこでだれに会っても顔を背けなくてはならない人が一人もいないということが私の財産だ

時、社に勤めているのでなく、親父様と一緒に仕事をしているのだと返事したとの笑話があります。広告し無理して貰う仕事よりは、先方様から頼まれたら懇切丁寧にご希望に添う努力を払い、取引は継続するよう、そして巾狭くとも世間に有意義なものを深く追及して行くことに徹したつもりで、今日に至りました。鉄資源の節約を目的に職業を通じて、社会奉仕に自分の勤めが出来たと考えています。これも故青柳先生のお蔭様と信じている昨今です。先生が今少し長生きしてくださったら、今少しよい日本になったであろうにと、この点残念で大きい心残りであります。

さて私は若い時に、先に述べましたように、中小企業が大企業に吸収され、そのため会社を罷めた苦い経験があります。自分が会社を経営するようになってからも、大企業から特許共有の申出や、下請工場契約などの勧誘がありましたが、すべてを断つて、わが道を行く主義に徹してきました。社業を大きくすることは一切考えず、会社の従業員を家族とする大家族主義の下に会社の経営に当って来ました。

かつて、下松日立製作所で弊社の従業員に、お前のところには何故労働がないのかとの質問された時、社に勤めているのでなく、親父様と一緒に仕事をしているのだと返事したとの笑話があります。広告し無理して貰う仕事よりは、先方様から頼まれたら懇切丁寧にご希望に添う努力を払い、取引は継続するよう、そして巾狭くとも世間に有意義なものを深く追及して行くことに徹したつもりで、今日に至りました。鉄資源の節約を目的に職業を通じて、社会奉仕に自分の勤めが出来たと考えています。これも故青柳先生のお蔭様と信じている昨今です。先生が今少し長生きしてくださったら、今少しよい日本になったであろうにと、この点残念で大きい心残りであります。

ろうと返事して笑っている次第です。

最後に青柳先生を偲んだ詩を記して筆を擱きます。

題青柳榮司先生偲

青柳音無川畔塵

健康と人生

講大十年卒 中村秀治

古稀を過ぎる年令になるとよく人様から「健康法は？」と聞かれる。が自分としてはゴルフ以外にもなんにも運動をして居ないし、之れと云う健康法も特別にやって居ない。健康で、ゴルフ場に行くによくチャデーさんからお世辞かもしれないが「御達者ですね」「お元気でですね」と言われる。実際近年歯医者さんに時折り御世話になる以外に内科のお者さんにかかったことがないので元氣なことを自負して居る。

去る一月二十九日の朝六時半のNHKテレビ番組の『明るい農村』で福岡県朝倉町(人口一万五千)の最近長寿町と評判の町営診療所の話題が放映された。其の内容が老人にも若い者にも健康を維持し長寿を保つ為にも実によい教訓になる事ばかりなので、其内容を披露し併せて私の意見も申し述べさせて頂き皆さんの御批判を仰ぎたい。

柳營教垂三美德
榮枯不論捧育英
司哉雪螢学究士
先生景仰草歌詩
生前温顔彷彿懷

診療所長の林先生は地元出身のお医者さんで、お年は六十才位かと思われた。その先生とNHKアナウンサーとの対談内容は次の通り。

『先生、この町は日本でも評判の長寿町とのことですが診療所でのどんな健康管理指導をなさって居られますか？』

『医者と云うものは病気を直(なお)す仕事をして居ると思われ勝ちですが、もちろん病身を見て直(なお)す手助けも仕事ですが、それ以前に、予防医療が大切です……が、もう一歩進めて人体の健康維持のために、なにもものにも負けない精神力をもつことが一番大事で病いにおかされない精神、魂による体力作りに専念すること、その体力作りには頭脳も神経も骨肉も万偏なく活用すること、それには仕事をすることです。此の町の町民は主に農作業ですが、どんな老人でも野良に出て

働いて居ります。此の老人(テレビに出て来た)は九十才以上ですがこんな仕事(馬代りに鋤を引張って畑をたがやす)をして居られます。町民みんなが楽しく働くことです。人間の五体は使う程丈夫になるし、使わない所は退渉してしまいます。それで私は町民の皆さんを集めて週に一回、健康に暮らすのにどうしたらよいか其の方法、処方の話しをして居ります。其の要旨は前にも申し上げた様に五体を万偏なく活動させる労働をすること、長生きしようなどと思わず今日一日を速者で愉快に過ごす事、長生きをしようとの欲望があれば精神、動作が消極的になる。例えば病気に恐怖心を持ってばかりかえって其の病気に取付かれる。病いは気からというが全くその通りで先ず第一に健康なる精神を持つ事、強い神経と氣迫を持って暮らすこと、という精神面の話しを主として致して居ります』

た精神魂を内蔵した機械で、其の内蔵物には医者あり化学者あり修理士ありで全機能を包含して居るのが人体である事を御承知頂きたい。然るが故に人間が造った機械は使用個所が磨耗するが神から頂いた人体は磨耗するどころか返って内蔵されて居る医者や修理工の精神的生理的作業に依って使用個所が強靱となる。先の林先生のお教え通り使う程丈夫になるといふ御言葉通りだと思ふ。

健康なる身体には健康なる精神が宿る、否健全なる精神が健康なる身体を造る。という格言は如何でしょうか!!

体力を養成するには食物をよく喰う事。好き嫌いなく喰う事が一番よい健康食法であるが、人間には顔形が違ふ様に食物にも好き嫌いがあるのは当然といふべきだろう。

世の栄養学者は栄養学的数字を並べて食物を評価し、蛋白だ、カロリーやビタミンの栄養価を云々される。それも学問的には結構だが、好き嫌いが多く相当偏食の人も多い様であるが、あままり気になさらない方がよいのではないだろうか。先に述べた様に人間顔形が違ふ様に内臓の機能も相違して居り好きな物は自分の身体に合う様に消化され栄養を吸収し嫌いなものは「化で排泄される様で

これらも精神作用によるものと思われる。つくづく考えてみると、人間だけが沢山な種類の食物を自然から与えられて居る様に思われる。他の動物たちは草食、肉食とその種属に依って各々食物が大体決められていてこれ等の動物は考えてみると極端な偏食を余儀なくしている。この事に思いをめぐらすと、前述の人間の偏食もあまり気にする必要はないのではないかと思われる。文化が進み諸般の学問が進歩し月の世界まで人間が行けるようになった現代でも、栄養学で割出した食物を並べてあこれで人体を構成する骨、肉、脳髓、皮膚、血液等々を造って見て下さいと頼んでもどんな医、栄養、化学の学者の方々も何に一つ造る事が出来ない現代ではないでしょうか、今更ながら神(造物主)の偉大さ神秘さを感じる次第である。

公害だ、スモッグだとおどかしもんくに負けず(日本の上空は一時間四〇キロ位の早さで西から東に氣流が流れて居りこれが自然の浄化作用)、今日スモッグを吸うた肺臓は精神力と生理作用に依って抵抗力が増し、明日はより強靱な肺臓に生まれかわると思われる健康を保持する体操やあらゆる運動方法があるが、内臓機能を強靱にする運動、特に呼吸器に対する

これらも精神作用によるものと思われる。つくづく考えてみると、人間だけが沢山な種類の食物を自然から与えられて居る様に思われる。他の動物たちは草食、肉食とその種属に依って各々食物が大体決められていてこれ等の動物は考えてみると極端な偏食を余儀なくしている。この事に思いをめぐらすと、前述の人間の偏食もあまり気にする必要はないのではないかと思われる。文化が進み諸般の学問が進歩し月の世界まで人間が行けるようになった現代でも、栄養学で割出した食物を並べてあこれで人体を構成する骨、肉、脳髓、皮膚、血液等々を造って見て下さいと頼んでもどんな医、栄養、化学の学者の方々も何に一つ造る事が出来ない現代ではないでしょうか、今更ながら神(造物主)の偉大さ神秘さを感じる次第である。

強化運動方法として深呼吸は誰れもがやっけて居るが、それではスモッグに対する訓練にはならないと思う。呼吸器訓練運動方法としてスモッグ・チャンバーを作つて濃度の薄い室から段々と濃度を上げ都会で最悪の状態までの濃度にした五段階位の室を作り呼吸器の訓練運動場でも経営される呼吸器専

昭和55年度電気系教室

卒業生の就職・進学状況

電気工学第二教室主任

上之園親佐 (昭18卒)

電気工学教室主任

林 宗明 (昭27卒)

電子工学教室主任

田丸 啓吉 (昭33卒)

電気系教室主任として卒業生の就職等の世話をしましたので、その状況について御報告致します。

今年度は産業界の好況と各方面の電子化指向が相まって、電気系卒業生に対する求人はず想像以上に多く、お陰様で就職の世話も十一月中には全て終えることができました。教室の卒業生が多方面の分野で活躍するよう、また特定企業に集中することのないように配慮する例年通りの方針で対処致しましたが、なを御期待にそえない点

門のお医者様でも「あれたら呼吸器疾患予防に役立ち公害病者も少くなりはしますまいか!!」
『生きて甲斐あり死して悔いなき一日がわれらの生涯をゆたかにする』
『人間は病気で死なない死は天命である。これを寿命という』
というのが私の健康訓である。

もありましたことをおわび致します。

学部および修士課程卒業生の就職・進学状況を別表に示します。今年度は卒業生の数が例年に比べて少なく、就職希望者は学部52名、大学院(修士)62名でした。一方学部卒業生の大学進学者も前年に比べて若干減少しましたが55名が進学致しました。

博士課程を学修退学する学生は表には含まれておりませんが5名の就職が内定していまや。
最後に例年卒業生の採用につき御高配をいただいております洛友会々員諸兄に厚く御礼申し上げますとともに今後とも相変らぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

種別	学部	大学院	
官公庁	3	4	通産省, 郵政省, 特許庁, 警察庁, 電総研, 大阪市, 三重県庁
公社・公団	1	1	宇宙開発, 専売公社
通信・放送	2	8	電々公社, NHK, KDD, 日本テレビ, 毎日放送
電力	5	8	関西電力, 中部電力, 中国電力, 九州電力, 四国電力
交通運輸	2	1	国鉄, 近鉄, 京阪
電気・電子	21	21	東芝, 日立, 三菱, 松下電器, 日本電気, 富士通, シャープ, ソニー, パイオニア, 三洋, 富士電機, 松下電工, 村田製作所, 大阪変圧器, YHP, T Iアジア
電線	0	3	住友電工, 藤倉電線
製鉄・金属	3	5	新日鉄, 神戸製鋼, 川崎製鉄, 住友金属, 日本鋳業
機械・自動車	7	5	トヨタ自工, 日本電装, 三菱自工, 日産自動車, 川崎重工, 三菱重工, フジテック
精密機械	5	4	リコー, 日本楽器, 富士写真フィルム, 島津, 凸版, 大日本印刷
その他の会社	3	2	東レ, サントリー, 日揮, 東レエンジンアリング, 朝日新聞
進学の他	55	7	(名大博士課程を含む)
	0	1	(医大入学)
合計	107	70	

昭和55年度洛友会東京支部活動行事報告

昭和56年4月2日

洛友会東京支部

支部長 永安 弘

洛友会東京支部は現在約一、五〇〇名会員を擁する大きな組織となつて居るが、会員相互の親睦を深め、また洛友会の一層の発展のために以下に述べるような諸行事、諸活動を積極的に進め所期の

成果を収めることができた。

1、東京支部総会行事

昭和55年度支部総会は昭和55年6月7日(土)東京都港区の八芳園において開催し、本部より一名、支部より一〇二名(同伴者五

2、慶弔に関する行事

東京支部では毎年、米寿、喜寿を迎えられた方に、これを賀する意味で記念の品を贈呈しているが、本年も米寿の方二名、喜寿の方七名に上記総会においてこれを賀し、記念品贈呈を行なった。な

(名)の計一〇三名という多数の出席を得て盛大にとり行なつた。本部からは上之園先生の御出席を賜り、教室の近況について御報告頂いた。

お、この機会に、松田会長の米寿を賀し、東京支部として記念品をお贈り申し上げた。

また、本年度他界された方にはささやかながら支部から御霊前をさしあげた。

3、第1回研修見学会行事

55年10月18日(土)本年度第一回の研修見学会を科学技術庁航空宇宙技術研究所(東京都調布市)において実施した、参加人員は四六名で、スライドによる同研究所の紹介に引続いて、遷音速風洞、エンジン関係、フライトシュミレータ等の施設で見学するとともに、所幹部の方々を交えて昼食を共にし、有意義なひとときを過ぎた。

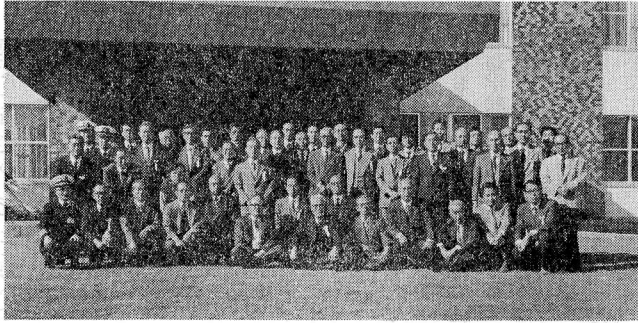
4、旅行会行事

55年11月3日(祝)、会員の家族共々参加するバス旅行会を行なった。昨今の交通事情を考慮し、比較的東京に近い場所を目的地に選んだところ九五名(大人七八名、小人一名、幼児六名)という多数の参加を得た。横浜の比較的ポピュラーな場所をめぐることも、昼食時には中華街で十分時間をかけて懇談する機会を設け、懇親の実をあげた。

5、第二回研修見学会行事

55年11月29日(土)第二回の研修見学会を防衛庁海上自衛隊横須賀地方総監部において実施した。

参加者は四八名であり、午前九時四五分から午後十五時まで十分に時間をかけて実施した。午前中は潜水艦「はるしお」に塔乗し、内部をくまなく見学し、詳しい説明を受けた。午後は護衛艦「ひえい」を見学した。艦長はじめ多数の幹部隊員による懇切な説明案内があり、有意義な見学会を実施することができた。写真はこのとき総監部の前で記念撮影したものである。(写真参照)



6、名簿広告取得活動

東京支部会員約六〇名の懸命な取得活動と協力により、年度頭初

計画(二、三〇〇千円)とはるかに上回る一九九二、九六〇千円の応募獲得に、成功した。これは昨年度実績(二、四六〇千円)をも上回るものである。55年12月9日には活動に参加・協力頂いた方々の慰労を兼ねて反省会を実施し、来年も積極的に協力し合うことを約した。

7、趣味の会およびグループ活動

東京支部では囲碁会、将棋会、麻雀会、ゴルフ会、謡曲会、テニスの六つの趣味の会、ならびに鶴友会(明治、大正卒)、洛東会(昭2~昭7卒)、らっきよ会(昭8~11卒)、洛楽会(昭12~16)、東友会(昭17~20卒)、おぼろ会(昭21~24卒)、デルタ会(講習所卒)の七つのグループがあり、それぞれ懇親の実をあげるべく活動を行なっている。

8、講読会行事

56年2月27日には講読会を開催し、研修の実をあげた。すなわち、講師として富士通(株)顧問であり産業構造審議会専門委員である山本幹次氏(昭16・12卒)にお願いし「80年代における情報化社会の展望」と題する講演を行なった。そのあと熱心な討論が行なわれ、しばらく時間の経つのを忘れるほどであった。以上、東京支部では55年度とし

て八つの行事を活発に行なったが、これにより、全員相互の親睦の実をあげるとともに、いささか

でも洛友会の発展のために寄与し得たものと考ええる。

昭和56年度洛友会総会通知

一日時 6月13日(土)

二会場 東京目黒八芳園 最寄駅 山の手線目黒

三議事 東京支部評議員会 午後二時半~三時半

本部総会及び講演 午後四時半~五時半

懇親会 午後五時半~七時

四会費 会員 三〇〇円 同伴者 一五〇円

昭和56年度卒業生 無料

会費は別紙総会振替用紙にてお払下さい。なお、これをもって総会出席通知に代えますので御出席の方は5月30日までに御返事を御願致します。本会には御家族同伴を歓迎しますので多数御誘い合せの上御出席下さい。

洛友会々費納入のお願い

昭和55年度会費未納の方には納入請求の印を押して会報と共に送り致しますので速かに御払込み下さい。

昭和56年度の会費も早い目にお払込み願います。

会費は本会存続の鍵ですから納入率向上には各位の御協力を切にお願い申し上げます。

「電講卒業生のみなさんえ」

昭和十五年の最後の卒業生もお蔭さまで昨年中に還暦を迎えることが出来ましたので今年夏には恩師関野弥三先生の拾七回忌にも当りますので法要をデルタ会役員有志が集って左記により営みますので何卒近府県在住の方々には御参加下さるようお願いいたします。

尚御出席の方は幹事長、上野え(〇七五―四五一―二一八六)六月三十日迄に御連絡下さい。

一、日時 七月十二日(日)午前十一時
一、場所 京都市上京区室町寺の内上る
(市バス烏丸中学前下車西入)

無学寺(〇七五―四三一―四五四五)
一、会費 金五、〇〇〇円也(含昼食)
当日受付にて頂戴致します。

尚今年迄に米寿を迎えられました先輩方えはお祝いに金飾の盃を別便お送りしました。

同窓会記事

第二十四回

らっきょう会の記

(とき) 昭和五十六年二月十九日
(第三木曜日) 午後六時
(場所) 銀座東京ホテル 真砂の間

昭和八年から十一年卒までの在京者四十名の中丁度半数の二十名が集る。大抵顔ぶれは定連者が主

以上

であるが時々久方ぶりの出席者があらわれて嬉しい。身心共に健康な証拠を見せてくれる。今も大会社の幹部として大活躍をし国家社会に貢献中の人も暇を見つけては出席されている。心の故郷の一つであるからであろう。当日は珍らしく曇り空で小寒さを感じる日であったが出足は好調、カッキリと定刻六時には全員集合して先づはお互いの健康を祝しての乾盃で幕が開かれた。初め暫らくは健康の話、孫の話におとなしく序幕が進む。

む。食う程に飲む程に段々若さが甦って来て、詩吟民謡はたまた、わが会の第二校歌にもなぞらえて

いる三高ポト部の琵琶湖周航の歌に移り、全員高唱乱舞の中に最後に全員起立、アイン・ツバイ・ドライの合図と共に校歌(?) 祇園小唄を敵そかに懐しみを籠めて大合唱して散会した。

出席者、(昭八) 蒲生・田井・田中・西山・(昭九) 石川・市村・河野・中井・松井、(昭十) 有馬・井上・大塚・佐野・塩沢・高木、(昭十一) 古池・杉本・高木・直海・綿谷) 計二十名 (古池記)

昭和八年

卒業生近況報告

。昭和五五年度同級会
昭和五三年の卒業四五周年同級会の決定により、卒業五十周年の同級会開催まで中間年に同級会開催のこととなり、今回は四国在住の阿部、藤原両氏にお世話願うこととなった。

昨五五年十一月十五日、参加者一同は午後六時までに高松の紅葉に集合した。会するもの会員十四名、夫人十名総計二十四名で、急用などのため田中、中尾両氏が欠席され残念であった。同夜の宴席は夫婦の合唱などの余興もあって、大いに気炎をあげ、次回の同級会

は関東地 級友のお世話になり、昭和五七年春季開催と定めたい。

翌十六日には観光バスにて屋島、栗林公円、金比羅宮、大沙厄を観光、夕刻高知着、三翠園ホテルに宿泊した、ここで第二回目の懇親会を開き、藤原夫人の至芸を披露された。

さらに十七日は観光バスを利用して高知市内観光を行い高知城、竹林寺、桂浜などを経て、昼食後国鉄高知駅で解散した。桂浜の坂本龍馬の像は美男だったが、闘犬は血腫い経験であった。しかし三日間の旅は瞬間に終わった思っていた。直接高知より帰宅する人、松山に足摺押に足を伸ばす人もあり、再会を約して分れた。



この企画に大へんな御尽力を下された阿部、藤原両氏に謝意を表したい。

関西在住の五人は同伴の夫人四人と併せて九名、午後二時高知より足摺岬観光に向った。十八日は稀にみる日本晴に恵まれ、足摺岬、見残し、龍亀と順次たづね、中村より国鉄を利用、午後六時ころ会員無事高知空港に到着解散した。

参加者氏名 阿部、岡村、小原、片岡、川端、塩見、藤原、西谷、西村、西山、宮本、山下、山本
写真は金比羅宮にての記念撮影。

関西昭八会

。関西在住者は関西昭八会の仮名のまま二ヶ月に一回の会合を開いている。(現在は偶数月の後半) 十二時三十分大阪堂島の中央電気クラブに集合、会食後思いのままの雑談にふけて、次回の日取を決定し、解散するのが行事としてある。現在の常連は十一名、ほとんど欠席者はない。未だ連絡のとれていない方、他地区で出席希望の方は、世話係の岡村、西谷、宮本までご連絡下さい。

また関東地区では蒲生、西山、丸氏らが随時会合を御世話下さっている。

支部総会通知

中部支部

五月九日 (土)

中国支部

五月十五日 (金)

四国支部

五月二十三日 (土)

関西支部

五月三十日 (土)

事務局よりの御願い

○会員名簿の正確を期するため

勤務先別に、御手紙を差上げ御返事を頂いて居りますが、住所変更のある場合は、その都度会員各位から直接事務局宛御通知下さる様、お願い申し上げます。

○※友会報の原稿集めに何時も苦勞して居りますので、会員各位より感想その他外遊記事等を御寄稿下さいます様、御願致します。但し紙数が余り多くなつた場合には、次号に延期させて頂きますので御諒承下さい。

おわび

昭和五十六年一月一日発行の謹賀新年 年頭挨拶欄の内 次の通り誤まりが有りましたので訂正致しますと共に深くお詫び致します。

誤 株式会社トクヤマキカイ
正 株式会社ヤマキカイ

計報

講大6年	井上 佐一郎	56・3・20
講大11年	藤村 巖	55・10・22
講昭4年	平尾 説市	56・1・9
大6年	大西 冬藏	56・1・6
大13年	中村 喜一	55・10・30
昭6年	山本 茂雄	56・3・3
昭24年	上田 孝次	54・7・24

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

洛友会(同窓会)の歌 松田長三郎 作詞 作曲

- (1) 古き都に幾^{とせ}歳とよに学ばし同窓の
今日なつかしきこの集い 青春の日はよみがえる
- (2) 心はずみて学ばし^{あけくれ}の 門をくぐりし若き日の
夢多かりし^{あけくれ} 明暮は 希望に燃ゆる日とぞあき
- (3) 世に出でしより年と経ぬ 思いはめぐるかりふしに
まふたに^{あけくれ} 浮ぶ師や友の 夢も聲もなつかしや
- (4) 名残はつきじさらば友 進み行く世に新らしき
技術を樹^たぶくもも^たまた^た會う日まで^た強く^たまを^たん